



このレポートは、私・和仁が毎月のコンサルティング活動や日常生活を通して気づき、学ばせて頂いたことを書き留めたものです。  
お気軽にご笑読頂ければ幸いです。

## 【今月の気づき】

### 『チームで仕事をするものの本当の価値とは？』



レポートBECCA

「**チ**ーム」で仕事をする人は、今も昔もたくさんいます。ビジネスの世界はもちろんのこと、例えば芸能界でも、人気ロックバンドは「チーム」です。一見、「一番人気のあるメインボーカルがソロでやったほうが自由も利くし、分け前も増えるので得なんじゃないか？」とも思えるのですが、なぜかバンドとして活躍しています。

では、チームとして仕事をするのと1人で仕事をするのでは、どのような違いがあるのでしょうか？ビジネスにおいては、たとえば次の答えが思い浮かびます。

「お互いが持っている各自の専門分野の知識を出し合えるので、アイデアが膨らみやすい」  
「売るのが好きな人、作るのが好きな人、人前で話すのが好きな人、それぞれの得意なことに専念し、苦手なことはそれが得意な人に任せることができ、効率が上がる」

以前の私は、それぐらいにしか思っていませんでした。しかし、これらは「チーム」で仕事をするものの真の価値ではないと、ある出来事で気づきました。それは、ヒッチハイクです。

以前、私はある研修の課題で、ヒッチハイクで静岡から大阪まで向かうというチャレンジをしました。それは、1人でもグループでも良いとのことだったので、私は仲間と3人でチームを組みました。そして高速道路のサービスエリアで、大の大人が3人で、見知らぬ人に「車に乗せて欲しい」とお願いするのです。理屈で考えたら、物騒な今のご時世に、そんなリスクのある申し出を受けてくれる人がいるとは思えません。また、3人を途中で乗せるということは、5人以上乗れる車に2人以下で運転している人でなければ物理的に無理です。そうやって理屈で考えると、「むしろ1人で動いたほうが、相手も警戒せずに乗せてくれる可能性が高いんじゃないか」と思いませんか？

しかし、結論として3人でチームを組んでチャレンジしたのは正解でした。なぜなら、ヒッチハイクは簡単にOKが出るものではありません。何度も断られます。もし1人でやっていたら、10回も断られれば途中で挫折していたかも知れません。しかし、3人で動いていると、自然発生的に精神衛生面の役割分担が出来てきて、誰かが落ち込むと誰かがフォローし合えるのです。いくら能力が高くても、知識があっても、体力があっても、心が折れたらお終いです。良いときは喜びを分かち合え、辛いときは支えあえる。そこにチームの良さがあることを、そのとき実感として学びました。

## 【今月の一冊から】

### 『その「選択の結果」をちょっと想像してみよう。』

>たとえば、ある朝、子どもが学校に行きたくない、と言ったとしましょう。特別な理由は  
>ありません。ただ行く気にならないというだけのことです。そして、その子は母親に向か  
>って、連絡帳に「病気なので学校を休ませます」と書いてくれとせがみます。こういう場  
>合、この子に、責任を取るとはどういうことかを教えてやらなければなりません。こうい  
>う時、母親は、連絡帳に、「この子は学校をサボりたいと言っていますので休ませます」  
>と書かなければなりません。こう書けば、きっと子どもはふくれるでしょう。その時はこ  
>う答えればよいのです。「あなたが休むことに決めたのでしょうか？だったらお母さんが嘘  
>をつく必要はないわ。お母さんは嘘を書くとは嫌な気持ちになるから、嘘は書きません。自  
>分が決めたことなのだから、その結果は潔く自分で引き受けなさい」

（ 『<からだ>の声を聞きなさい』 リズ・ブルボー 著

ハート出版 P.38 より引用 ）

今回の引用は、母親が正直に学校に報告することで、自分の【選択】が適切でないことを子どもに気づかせる一例です。子育てにも、部下の育成にも、はたまたコンサルティングにも共通すると私が感じることは、「自分の【選択】に責任を持つ」ことで成長が促される、ということです。それは1つには、真剣にならざるを得なくなり、その【選択】の結果を想像する力が鍛えられるからです。私たちは何かを【選択】するとき、意識的にも無意識的にも、「メリットとデメリット」を考え、比較しています。ただ、問題なのは、ときにメリットばかり（あるいはデメリットばかり）を思い浮かべてしまうことです。

たとえば、ダイエット中の人毎食後にケーキを注文するという【選択】をしたとします。「美味しいケーキを味わい、至福のひとつときを楽しめる」メリットと「太る」デメリットがアタマに浮かびますが、そのときメリットがクローズアップされていれば、ケーキを食べることを【選択】するでしょう。しかし同時にデメリットとして「糖尿病の傾向があるので、日常生活を脅かされる」「これ以上太ると、今着ている服が着られなくなる」など、本人が深刻になるに足る理由をイメージしたなら、そこで【選択】が変わるかも知れません。

しかし実際には、私たちは普段、いちいち考えて【選択】をしていません。なぜなら、その【選択】に伴うメリットとデメリットを全て考えるのは、とっても面倒くさいからです。だから最近居酒屋でも、「とりあえず」というメニューがあるほどです。そのような中、親として上司としてコンサルタントとしてできることは何か？それは、本人にとってベストな【選択】ができるよう、その結果（つまりメリットとデメリット）を想像するサポートをしてあげることだと思うのです。そう考えると、相手の人生を背負いこむ必要はなくなり、相手も成長が促される良い循環ができるのではないのでしょうか。